

不妊・不育に対するタクロリムス(プログラフ)の使用 同意書

背景

以前から原因が明らかでない体外受精の反復不成功症例や原因不明の不育症の患者様の中には受精卵・胎児に対する拒絶反応が強く、着床後の免疫学的な受け入れが十分行えない事がその病因の一つと考えられている方がおられます。この拒絶反応を抑えるために免疫細胞(T細胞)の機能を抑制する薬、タクロリムスを用い、母体の胎児拒絶反応を抑えることで着床・妊娠の維持が可能と考えられます。この薬は臓器移植を受けた患者様に幅広く使われ、移植された後、お薬を内服し続けた状態で妊娠・出産された多くの患者様の報告があり、児に対する安全性も明らかとされております。

投与対象

体外受精の反復不成功症例・原因不明の不育症の患者様に対し、免疫学的な検査を行い、受精卵や胎児への拒絶を起こす可能性が高いと評価された患者様を対象と致します。

当院はかかりつけ医で行われている体外受精の結果を踏まえ、かかりつけ医より依頼を受けてタクロリムスを投与します。

薬剤について

肝臓、腎臓などの移植後にタクロリムス治療を行っている患者様の妊娠による児への安全性は十分報告されていますが、未知の胎児への影響がある可能性は否定できません。

※自然流産の確率は約 15%、先天異常の自然発生率は 2~3%といわれており、タクロリムスを使用した妊婦で増加するという報告はありません。

費用負担

治療にかかる薬剤の費用は患者様ご自身の負担でお願い致します。

意思決定について

本剤を服用するか否かは、患者様の意思で選択できます。服用する場合には WEB 同意をお願いします。

アヴァンセレディースクリニック院長殿

私は上記について十分に説明を受け、理解をした上でタクロリムスを服用することに同意します。